

「京都市生物多様性プラン（2021-2030）」中間見直し案への主な意見の内容と本市の考え方（案）について

意見募集結果

1 応募者数及び御意見数

応募者数：63名 御意見数：128件

<参考>パブリックコメント全体の応募者数：254名

2 御意見を頂いた方の属性

ア 居住地

区 分	応募者数 (名)	割 合 (%)
① 京都市内在住	50	79
② 京都市外在住 (市内に通勤・通学)	4	6
③ 京都市外在住 (②以外)	5	8
④ 無回答	4	6
合 計	63	100

※四捨五入の関係で%の合計が合わない。

イ 年齢

区 分	応募者数 (名)	割 合 (%)
① 20歳未満	1	2
② 20歳代	16	25
③ 30歳代	12	19
④ 40歳代	8	13
⑤ 50歳代	8	13
⑥ 60歳代	10	16
⑦ 70歳以上	5	8
⑧ 無回答	3	5
合 計	63	100

※四捨五入の関係で%の合計が合わない。

3 御意見の内訳

項 目	意見数 (件)
ア プラン全般に対する御意見	12
イ 京都市における生物多様性の重要性と課題に対する御意見	19
ウ プランが目指すものに対する御意見	7
エ 2050年のあるべき姿に対する御意見	3
オ 2030年度までの目標と施策に対する御意見	83
(ア) 京都らしさを支える生物多様性の持続可能な利用	5
(イ) 生息・生育地と種の多様性の保全・回復	25
(ウ) 生物多様性に配慮したライフスタイルへの転換	10
(エ) 社会変革に向けた仕組みの構築	24
(オ) 各施策を一体的に推進する取組等	19
カ 推進体制と進行管理に対する御意見	4
合 計	128

ア プラン全般に対する御意見（12件）

主な御意見	本市の考え方
<p>（プランの内容に対する賛同意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画の見直しに賛同する。速やかに実行してほしい。 ・これまでの成果や時代に合ったりサイズを行っているところが良い。合理性とは切り離し、人としてすべき考え方が根付くよう、これからも啓発を続けてほしい。 ・京都はお寺や鴨川があり、街中から山が近くに見え、自然豊かな街である。素晴らしい自然を未来につなぐため、プランに記載の取組を進めてほしい。 ・写真で京都の自然の素晴らしさが例示され、市民に取り組んでほしいことが分かりやすく書かれており、よく見直された計画である。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>あらゆる主体の皆様と連携を図り、「2030年度までの目標」の達成に向けて推進し、「自然共生のまち・京都」を実現してまいります。</p>
<p>（プランの分かりやすさに関する御意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見直し点を明確にすべき。 ・見直しの観点にある「行動変容の促進」の施策が、どのような人のどのような行動を促進しようとしているのかが分かりづらい。 ・行政内の視点でしかないため、誰のための計画か整理すべきである。 ・こども・若者にも理解できるような「やさしい版」も今後作ってはどうか。 ・行政が考えた内容を市民に行動してもらうのではなく、市民がどのような行動がふさわしいかを考え意見し、行政がその意見に対応することも必要である。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>本プランの冒頭に「改定の趣旨」の項を設け、見直し点を明記いたします。</p> <p>本プランは、市民、活動団体、事業者等あらゆる主体の皆様が行動できる指針となるよう策定しており、誰にでも分かりやすくなるよう、写真を多用し、記載内容を平易にするなど、表現等を工夫いたします。</p> <p>また、京都市環境基本計画において作成する「主体別指針」において、市民、事業者、滞在者（観光客等）の各主体の具体的な行動の実践につながる行動例を示すことで、市民をはじめとした皆様の行動を促進してまいります。</p>

イ 京都市における生物多様性の重要性と課題に対する御意見（19件）

主な御意見	本市の考え方
<p>（京都市における生物多様性との関わりに関する御意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「京料理」の写真は一般的な和定食のイメージであり、本文で言及されている京野菜や川魚など、京都市の生物多様性との関係性が希薄に思う。 ・食文化に、酒、麴、醤油など、微生物が関わる食品も入 	<p>食文化と生物多様性との関連が分かりやすくなるよう、写真の選定や表現を工夫いたします。</p>

主な御意見	本市の考え方
<p>れてはどうか。</p>	
<p>(京都市の自然環境の特徴に関する御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物のすみかや CO₂ の吸収にも資する自然が、もっと増え、市民が身近に感じられるようになると良い。 ・コラムに記載の「エコロジカル・ネットワークの形成」は、どのように実現するのか気になる。 ・広域的な生態系保全の視点が必要であり、重要湿地である淀川水系の保全といった考え方を記載しておく必要がある。 	<p>公園や庭園、河川等において身近な自然との触れ合いの場を確保するなど、生物多様性に配慮した市街地の緑化や川づくりを推進し、エコロジカル・ネットワークの形成に取り組んでまいります。</p> <p>コラムで「河川・流域連携の重要性」を紹介するなど、広域的な生物多様性保全の視点を掲載してまいります。</p>
<p>(京都市の生物多様性の課題に関する御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フタバアオイとアカマツについて、双方の生育に適した環境がそれぞれ減っている旨について、丁寧に記述されると良い。 ・クマの出没やシカの食害などの獣害問題をもっと盛り込むべきである。 ・河川にクマなどを引き寄せる誘引果樹が生えていたり、河川の雑草が繁茂してすみかになっている。特に山に近い地域では、京都府など河川管理者と連携し、誘引果樹の伐採や雑草の草刈りなどを進めてほしい。 ・里地里山を人間が適切に手入れすることは、生物多様性保全にとって非常に重要である。人が里地里山の魅力に触れ、生活の中に取り入れることが、生物多様性の保全につながる。 ・大原野地域では、放置竹林問題と獣害問題の負のサイクルが発生しており、サイクルを断ち切る必要がある。 ・開発や地球温暖化の影響等により、鎮守の森が危機的状況にある。 ・京都市の森林保全や河川管理が下流域に好影響を与える一方、ポイ捨て等により悪影響を与える可能性もある。京都市の取組が他地域の生物多様性に与える影響があることも明記し、市民が自覚を持った生物多様性の取組が重要である。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>それぞれに適した生育環境が減っていることが分かりやすいように、表現を工夫いたします。</p> <p>シカやイノシシ、クマをはじめとする野生鳥獣や地球温暖化等による昨今の生物多様性の危機や里地里山の手入れの必要性を本プランに明記し、市民の皆様に伝えてまいります。</p> <p>庁内関係部署と連携し、地球温暖化対策等を推進してまいります。</p> <p>本市の取組が他地域の生物多様性に影響を及ぼす可能性があることも明記し、市民の皆様の行動変容につなげてまいります。</p>

主な御意見	本市の考え方
<p>(京都市におけるこれまでの取組と課題に関する御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昔は自然の中でよく遊んだが、最近は親子で自然に触れる機会が少なくなった。自然の中での環境学習の推進を期待している。 ・ 府市協調の取組を進めるべき。 ・ 保全活動家を増やすことを目指すのではなく、保全活動を支える市民の意識を高めてこそ「自然共生のまち・京都」が出来上がる。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>既存の小学校で実施している自然観察会を拡充し、学生や町内会など地域の皆様が自然に触れ、「原体験」を得る機会を創出してまいります。</p> <p>令和5年4月に府市協働で設置した「きょうと生物多様性センター」や、令和5年9月に府市共同で創設した「きょうと生物多様性パートナーシップ協定制度」をはじめ、引き続き府市協調で取組を推進してまいります。</p> <p>「生物多様性」に興味のある層だけでなく、学生や観光客等をはじめとした幅広い層の認知を促進してまいります。</p>

ウ プランが目指すものに対する御意見（7件）

主な御意見	本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連計画との整理・統合・横連携を行い、もう少し打ち出すべきである。 ・ 地球温暖化対策だけ、ごみの減量・リサイクルだけ、生物多様性保全だけに取り組みたい、それ以外の分野はどうでもいいという考えを持っている人はほとんどいない。何かに取り組もうとする人が、他の分野の行動にも何気なく関心を抱けるように各個別計画でも位置付けるようにしてほしい。 ・ プランにおける生物多様性は、京都市域を対象とするのか、京都市での取組で影響を及ぼしうる範囲を対象とするのか、もう少し整理する必要がある。 ・ プランが目指す方向性について、「生産、流通、消費」の後に「廃棄」や「リサイクル」等を追記してはどうか。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>脱炭素社会、自然共生社会、循環型社会の環境3分野について、シナジーの拡大やトレードオフの最小化を意識し、一体的に取り組んでまいります。また、農林や観光、みどり、教育をはじめとするあらゆる行政分野との融合を図り、施策を推進してまいります。</p> <p>本プランの対象区域は市域全体としています。取組による生物多様性への影響は、市域を越える場合もあると考えています。</p> <p>廃棄等も含め、表現を工夫いたします。</p>

エ 2050年のあるべき姿に対する御意見（3件）

主な御意見	本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・「自然を慈しみ」という表現は、市民に強要するものであるとの誤解も生じかねない。「畏敬と感謝の念」を持たせることが目的ではなく、「畏敬と感謝の念」を違和感なく持てるような「まち」を作っていくという意味であることを明示したほうが良い。 ・京都の文化が豊かな自然環境や生物多様性に支えられている事実は、市民や観光客に十分に認識されていない。文化と自然のつながりを集積し、発信する拠点が不足している。プランの大きな軸として「京都の文化とそれを支える生物多様性を保全し、継承すること」を明確に位置付け、具体的な保全施策や啓発活動を推進してほしい。 ・「生物多様性の保全」が担保されたうえで「生物多様性の持続可能な利用」が実現する。また、「ライフスタイルの転換」や「社会変革に向けた仕組みの構築」に分離する理由が分からない。せっかく見直すのであれば、計画の枠組みも見直すべきであった。 	<p>「自然への畏敬と感謝の念を抱けるまち」を環境分野全体の2050年の将来像として掲げるなど、自然の恵みを大切にするとともに、謙虚さのもと、日々の暮らしを営み、自然と共生するまちを目指してまいります。</p> <p>本プランの前文に「京都の歴史や文化が自然との共生により育まれてきたこと」「次世代に継承するには生物多様性の恵みを確保することが必要」と掲げるなど、重要な視点と位置付けております。目標1「京都らしさを支える生物多様性の持続可能な利用を図る」をはじめ、各施策を進めてまいります。</p> <p>「生物多様性の保全・回復」に取り組むことはもとより、近年、「京都らしさ」を支える生物資源の減少や里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下が進んでいることから、「生物多様性の持続可能な利用」にも重点を置くことが必要です。また、「ライフスタイルの転換」は個人の認知や行動変容、「社会変革に向けた仕組みの構築」は事業者や行政を含めた社会全体の仕組みとして、視点を分けて掲載しております。</p>

オ 2030年度までの目標と施策に対する御意見（83件）

(7) 京都らしさを支える生物多様性の持続可能な利用（うち5件）

主な御意見	本市の考え方
<p>(文化を支える生物資源の持続可能な利用に関する御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都の様々な魅力を維持するためにも、「季節感」をキーワードにした文化の継承発展と街づくり、その基本となる環境政策が重要である。 	<p>京都の文化は、四季の変化に富んだ豊かな風土により育まれてきたものであるため、生物資源を持続可能に利用できるよう、施策を推進してまいります。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・大原野地域は、大原野森林公園のみならず、フジバカマの保全活動やカタクリの群生地、フクジュソウの群生地などがある。地域と自治体など多様な主体の連携のもと、休耕田なども利用し、絶滅が危惧される京都ゆかりの植物の育成拠点とすることなどが可能となる。 ・地球温暖化への適応の面からも、花脊地区も含めた冷涼な山間部は、「京のいきもの」遺伝子資源拠点として適している。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>大原野地域はカタクリの群生地など希少な生物の生息地と認識しており、頂いた御意見も参考に、京都ゆかりの植物の持続可能な供給に向けて、取組を推進してまいります。</p>
<p>(サステナブルツーリズムの推進に関する御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生物多様性の視点を持つガイドを養成する仕組みの創設」について、観光客に自然環境を守る立場になってもらえるような働き掛けができるガイドを養成し、楽しく深い学びのあるエコツーリズムの実践を目指してほしい。 	<p>頂いた御意見も参考に、生物多様性の視点を持つガイドを養成する仕組みの創設に向けて、取組を推進してまいります。</p>

(イ) 生息・生育地と種の多様性の保全・回復（うち25件）

主な御意見	本市の考え方
<p>(重点保全地域における保全強化に関する御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府や国とも協調しながら、「深泥池」の生物多様性保全の施策を推進してほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>庁内関係部署や国とも連携し、深泥池の生物多様性保全に取り組んでまいります。</p>
<p>(里地里山の保全・回復に関する御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林の保全はすぐに効果が出るものではないので、ぜひ今から積極的に進めてほしい。 ・環境保全型農業を多面的に見て、その役割を広く伝えていく事が大事である。 ・大原野地域全体を里山に指定するとともに、イノシシやシカの適切な捕獲を進めてほしい。 ・野生鳥獣等の出没は、そのものの食害だけでなく、生物多様性を守る人々の活動に制限を与えている実態もあり、適切に捕獲、管理してほしい。 ・無関心層の取り込みや、意識の醸成に力点を置いているが、森林、河川、農地など実際の自然環境における生物多様性の保全を考えるべきである。例えば、シカの捕獲や管理、優先的に保全すべきエリア、その体制の検討など、戦略的に考えなければ、手遅れになる。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>森林や農地、河川など周辺環境が適切につながり、生物多様性豊かな環境を構築する枠組みづくりなど、取組を推進してまいります。</p> <p>また、シカ、イノシシ等の野生鳥獣の侵入防止柵の設置や適切な捕獲等を行い、生態系被害への対策を講じてまいります。</p>
<p>(希少種の保全・回復に関する御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気候変動により、生息地での生息だけでなく、平地での生 	<p>頂いた御意見も参考に、京都ゆかりの</p>

主な御意見	本市の考え方
<p>息域外保全活動は限界に達している。京都の生態系（希少動植物種）保全を行う丘陵地・山間部の地区、集落、施設に対する補助又は中長期の委託事業を推進し、プランへ記載すべき。委託対象としては、冷涼な山間部の集落単位や、数件の農家等が現実的に想定できる。また、花脊など市の公共施設なども有望。</p>	<p>植物の持続可能な供給に向けて、取組を推進してまいります。</p>
<p>(外来生物対策に関する御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来種対策に力を入れるべき。 ・京都を代表するタケノコの生産に外来種が悪影響を与えている問題は、計画に盛り込み、対策を急ぐ必要がある。 ・種の保存の意味は分かるが、侵略的外来生物の防除はやめ、自然淘汰に任せるべきである。人間が介入することで生態系のバランスが変わる。 	<p>外来生物対策を行う際は、地域の生態系や被害状況を把握し、専門家の御意見を踏まえながら、適切に対応してまいります。</p>
<p>(プラスチックへの対策に関する御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック問題について、多くの方が勉強して対応すべきであり、事業者、行政、市民が協力して有効な施策の検討が必要である。 ・河川に捨てられたごみ拾いの活動などを行っているが、一般市民には入れない場所もあり、府や市などで回収してほしい。 ・プラスチックごみへの対策として、給水スポットを増やし、自動販売機の数減らすことが大切である。また、缶やペットボトルではなく、紙コップやマイボトル対応自動販売機への切り替えを促進することが有効ではないか。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>庁内関係部署と連携し、生物多様性に配慮されたプラスチック代替品への転換促進等を行うとともに、街頭の散乱ごみ対策の推進や、河川における清掃活動の促進等により、プラスチックの流出による生態系への影響の低減を図ってまいります。</p>
<p>(地球温暖化に対する緩和策と適応策の推進に関する御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国の木材自給率を上げ、ウッドチェンジによる木材利用等の促進はもちろん、ウッド・マイレージを少なくすることで、CO₂の削減が実現できるかもしれない。 ・生物多様性と脱炭素は相容れない面がある。関係部署とも連携し、街中の緑化を進めてほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>庁内関係部署と連携し、森林等の二酸化炭素の吸収源対策や、気候変動の影響を軽減するための適応策を推進してまいります。</p>

(ウ) 生物多様性に配慮したライフスタイルへの転換（うち10件）

主な御意見	本市の考え方
<p>(自然とのふれあいや学習の機会の充実に関する御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域生きもの探偵団の発展について、地域と学校が連携するほか、活動団体には助成金を支給すべきである。 	<p>「生きものむすぶ・みんなのミュージアム事業」の推進や「地域生きもの探偵</p>

主な御意見	本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・大人になって行動するにはハードルが高いため、これまで意識してこなかった人が気軽に参加できる仕組みがあれば良い。 ・「地域生きもの探偵団」の発展について、小学生が野山や水辺で自然に触れる事で、今まで知らなかった世界を発見する機会になる。自分達が住んでいる身近な場所にも動物や野菜、草花のような植物を発見できた喜びが、小学生達の「原体験」を得る機会の創出になる。 ・「認知の促進」や「行動変容の促進」の様々な取組において、小中学生の参加を想定しているものは、理科との関連を明確化するなど、義務教育における位置付けを明確化すべきである。 ・京都の誇る文化であるマンガやアニメなどのツールでこれまで興味を持てなかった層にもアプローチできるのではないか。 ・今の若い人（大学生）やその次の世代（小学生から高校生まで）について、学校の授業の中で環境を意識する取組があっても良い。 ・一般市民も参加できる取組とその効果を具体的に示し、多くの人に自分が京都の生物多様性（自然）を慈しむメンバーとしての一体感を広げていくことで、結果的に自然保護活動を応援し、携わる人々を増やすことにもつながる。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>団」の発展など、学生や町内会など地域の皆様をはじめ、多様な主体の方々が「原体験」を得る機会を創出し、幅広い層の認知を促進してまいります。</p>

(I) 社会変革に向けた仕組みの構築（うち24件）

主な御意見	本市の考え方
<p>（生物多様性に配慮した企業活動の促進に関する御意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業として、自社で取り組めることを考えて取り組んでいきたい。 ・新しい施設を建てる際には、敷地の数パーセントは緑化するなどの枠組みを作ってほしい。 ・「生物多様性を活用した」への発想があっても良い。経済活動や日常生活の足枷としての保全ではなく、活力として生物多様性に着目することが状況を変えるのではないか。 	<p>生物多様性に配慮した緑化に係る優良事例集の作成・運用など、事業者における「生物多様性の保全と持続可能な利用」の行動を促進してまいります。</p> <p>経済活動や日常生活において、「生物多様性の持続可能な利用」の観点で取組を進めていただけるよう、表現を工夫いたします。</p>
<p>（公共施設・事業における配慮に関する御意見）</p>	

主な御意見	本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・「公共調達・公共事業における配慮の具体化」や「森林・農地における生物多様性保全の枠組みづくり」は、一つの重要な契機になり得る。枠組みづくりにとどまらず、その枠組みをいかに実践し、より良いものへと発展させていくのかを重視してほしい。 ・緑を保全するには、街路樹の適切な管理や、マンションや公共施設等の緑化保全、整備が必要である。 ・区役所などの公共施設での屋上緑化に期待する。 ・善峯川の生物多様性に配慮した整備を、他地域へ展開してほしい。 ・生物多様性に配慮した上で最大限再エネを導入してほしい。 ・既存の緑地、農地の荒廃や転用による多面的な機能の低下を食い止めるため、市街化調整区域での開発や農地の他の用途への転用の際に生物多様性保全の面からチェックする仕組みが必要である。 	<p>生物多様性に配慮した緑化に係る優良事例集の作成・運用など、公共調達・公共事業における生物多様性への配慮の具体化を促進してまいります。</p>
<p>(生物多様性保全のネットワーク形成に関する御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの保全団体では、担い手の世代更新ができておらず、活動継続が危ぶまれているため、活動団体や地域への支援を推進し、プランへ記載するべき。 ・企業・市民・行政・研究者が一体となり、生物多様性の保全・回復に向けた仕掛けの着手に強く期待する。 ・各活動団体の取組を知ってもらい、新たな参加者が募れる場づくりが必要である。 ・京都市の「観光地であること」、「学生が多いこと」という特徴が、各主体と連携をとることをより難しくしている。大学や企業との連携を強め、議論できるプラットフォームを形成し、議論する場を創出してほしい。 ・人を巻き込むという観点では、市街地でいかに身近な生物多様性を感じられるかにかかっており、寺社仏閣や鴨川などの自然空間の活用がその鍵になるのではないか。例えば川であれば流域の自治体と連携もできる。近隣の自治体にあるお寺などでも同様の取組が実践できる。ぜひ、自治体同士での連携や、活動されている団体の方等が新たな場所でも取組を実践し、地域の人に広がっていくような、大きな視野を持った政策にも積極的に打ち出してほしい。 	<p>「きょうと生物多様性センター」による市民・事業者等のネットワーク化や、「きょうと生物多様性パートナーシップ協定制度」による資金調達の仕組みづくりなど、保全団体等の活動が活性化するように努めてまいります。</p>
<p>(情報の集約・発信に関する御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クマ問題など、その時旬のトピックに絡めたユニークな 	<p>「きょうと生物多様性センター」を通じ</p>

主な御意見	本市の考え方
<p>情報発信も積極的に行ってほしい。</p>	<p>た情報の集約・発信や「生きものむすぶ・みんなのミュージアム事業」など、生物多様性の理解や行動に必要な情報を手軽に入手できるよう取組を推進してまいります。</p>
<p>(知見の集積に関する御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価指標に「生物多様性の状態を示す生きものの生息状況」とあるが、現状のとりまとめを公開してほしい。きょうと生物多様性センターで収集している情報も公開されているものがない。以前より観察できる種や地点が増えたなど、過去の情報と比較するかが重要である。 ・市民に行動を促すには、京都市の生物多様性の現状に関するマップを公開し、データを活用できるようにすることが必要である。 ・生物多様性が減少してきた原因となる人的活動を究明し、そのような活動を制限あるいは禁止する仕組みが必要である。 ・「生物多様性に係る現状の継続的かつ効果的な把握」は、ぜひ、具体的な取組として展開されることを期待する。 ・企業と連携し、データを共有することで市内の樹木等の分布を見える化できないか。 ・環境省が発表しているレッドリストに指定された希少生物がいないか確認する必要がある。 ・市民が報告する京の生きもの生息調査について、調査結果をどのように生物多様性保全に活用しているか明らかにするとともに、結果を河川や街路樹の管理に活用してほしい。 ・市内の各大学では京都市の自然環境に関する研究が膨大に行われており、環境行政・学術研究双方の推進を図ることができる。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>「きょうと生物多様性センター」を中心に、持続的かつ効果的に生物多様性の状況を把握する体制を構築し、優先的に保全すべき地域・動植物の見える化などの取組を推進してまいります。</p> <p>大学等と連携により、京都の生物多様性に関する知見を幅広く集積し、活用することにより、生物多様性の保全と持続可能な利用を推進してまいります。</p>

(オ) 各施策を一体的に推進する取組等（うち19件）

主な御意見	本市の考え方
<p>(推進プロジェクト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進プロジェクトの対象がどこか、何をするのか十分に 	<p>推進プロジェクトの内容が分かりやす</p>

<p>記載されていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> シカの食害、魚の移動障壁、農薬の使用、外来種の繁殖等、劣化した生物多様性を取り戻すため、多様な主体と連携し、「推進プロジェクト」に注力されたい。 各推進プロジェクト（4つ）の推進協議会をそれぞれ立ち上げられたい。推進協議会のメンバーとなる河川・水路管理者や環境保全団体、農林漁業者等の関係団体が同じ目標に向かって、取組を共有、連携することが重要である。 市民に今一度「里地里山の保全・回復」の重要性の理解が広がるよう「恵み豊かな森づくりプロジェクト」や「食と農業プロジェクト」など各推進プロジェクトにしっかりと取り組むことに期待する。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>くなるよう、活動の対象地や実施内容を明記いたします。</p> <p>庁内をはじめあらゆる主体の皆様との連携を進め、関連する取組を一体的に進め、各プロジェクトを推進してまいります。</p>
<p>(きょうと生物多様性センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> センターの取組が普及啓発等に偏りすぎているので、生物多様性情報の集約や多様な活動の連携等進めてほしい。 「きょうと☆いきものフェス！」では、楽しいものばかりではなく、市民に考えさせ、課題を突き付ける題材でも良い。 企業向けセミナーでは、自然環境における動植物の営みや生物多様性だけでなく、社会問題と一緒に考える題材でも良い。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>分布などの生物多様性情報の集積や多様な主体のネットワーク形成をはじめ、「収集」「利活用」「継承」の各テーマに掲げる事業内容を推進してまいります。</p> <p>頂いた御意見も参考に、「きょうと☆いきものフェス！」等を通じた市民の皆様への普及啓発や、企業向けセミナー等を通じた企業の皆様との課題共有及び企業間連携等による課題解決に向けた働き掛けを推進してまいります。</p>
<p>(生きものむすぶ・みんなのミュージアム事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> 雰囲気は伝わるが、実際のイメージが持てない。市民の関心など意識の醸成も重要であるが、市内のフィールドにおける生物多様性保全に向けたオール京都の取組が必要である。 新たな試みとして注目している一方で、「かつて存在していたものが失われつつある現象」にも目を向けることが重要ではないか。そうした変化の背景にある要因や、関わってきた人々の暮らしや営みについて掘り下げ、「ナラティブ」として編み上げていくアプローチも有効であり、ミュージアムの魅力や意義の一つとして位置付ける 	<p>頂いた御意見を参考に、文化や暮らしと自然や生きものとのつながりに関する情報を収集・公開、共通の興味・課題等を持つ方の交流促進・コミュニティ化、活動に伴う貢献度に見える化などの継続的な行動変容の支援により、生物多様性を結節点として、京都への愛着とまちの魅力の向上を図ってまいります。</p>

<p>ことができるのではないかと。</p> <ul style="list-style-type: none"> 市街地に生息する昆虫やシカの生態、外来種等も自然環境を考える題材にし、多くの方々に周知し、自然環境に興味を持ってもらう事も必要である。 「ミュージアム」という、自然を切り離して展示する発想に違和感を覚える。代替案として、自然環境の保全・整備、自然の中で学ぶ体験型教育の充実、共同で利用できる市民農園の整備などを検討してはどうか。 <p style="text-align: right;">など</p>	
<p>(自然共生サイト)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然共生サイト認定に取り組むことは、すばらしい。 「生物多様性連携増進活動」の枠組みができたことに対応し、きょうと生物多様性センターを含む自治体の役割を明示してほしい。 京都から、自然共生サイト認定を通してクレジット認定に取り組んでほしい。 	<p>自然共生サイトの概要や自治体の役割、インセンティブなどについて掲載いたします。</p>

カ 推進体制と進行管理に対する御意見（4件）

主な御意見	本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> 各主体間の連携が制度的に弱い。5.3 の図で「京都市」が入っていない。市がどの位置でどう動くかを明確にしないと、関係者を集めて自由に交流させて終わるのではないかと。 評価指標「生物多様性の状態を表す生きものの生息状況」は、どのような自然を目指すかという点で大事である。貴重種だけ大事にするのではなく、典型性の観点で検討してほしい。 評価指標「生物多様性の状態を表す生きものの生息状況」において、深泥池をモニタリングの対象にしてほしい。 評価指標で一見して適切に機能していないと思われるものが散見される。例えば、「ミナミメダカの発見数」、「侵略的外来生物等の防除の取組件数」、「新たな侵略的外来生物の定着確認数」などは、実績数が非常に少なく、実際の数値を適切に取得できない状態にあると見受けられる。 	<p>本市の位置付けが分かりやすくなるよう表現を工夫し、各主体との連携・協働を促進してまいります。</p> <p>評価指標については、持続的かつ効果的に生物多様性の状況を把握する体制の構築を踏まえ、本市の自然環境の特徴や地域性などを勘案し、適切な指標となるよう検討を進め、必要に応じて順応的に見直してまいります。</p>